

2021年度学校評価結果と2022年度重点目標

2022年3月
恵泉幼稚園

1. 本園の教育理念・教育目標・教育方針

【教育理念】

恵泉幼稚園は、高橋誠一が、「神は愛である」というキリスト教の教えに立ち、1935年（昭和10年）に設立した幼稚園です。幼いときに、自分が愛され、守られていることを感じることができ、幼児の豊かな心、健康な体、考える力を育みます。生きる力の基礎を培い、子どもとともに、育ち合う園であり続けます。

【教育方針】

意欲のある子ども・・・一人ひとりの個性を生かし、興味・関心に合った環境を作る

思いやりのある子ども・・・ありのままの自分が受け入れられていることを知り、遊びを中心とした生活の中で思いやる心を育てていく

感性豊かな子ども・・・自然豊かな広い園庭で、季節に触れ、美しさや尊さを感じる

感謝できる子ども・・・祈りを通して、神様に愛され、守られ、たくさんの恵みを与えられていることに感謝する心を育てる

2. 2021年度の振り返りと2022年度重点的に取り組む目標・計画

【2021年度、重点的に取り組む目標】

- ・成長に応じた「自立心」の育ちを積み重ねる。
- ・幼稚園生活の中で正しい姿勢を心掛ける。
 - 身体を思いっきり動かす遊びと、静かに集中する時間のバランスを大切に —
- ・年少組：お友だちと一緒に遊び、生活する楽しさを感じていく。

【2022年度、重点的に取り組む目標】

- ・祈る心を大切にする。
 - 大切な時を共に過ごす —
- ・集中して話を聞く
 - 園生活の中で、身体を思いっきり動かす遊びと静かに集中して話を聞く時間のバランスを大切にするを通して、めりはりのある態度が身につくようになる —

【2021年度、重点的に取り組む目標】を振り返りました（点検、評価）

：成長に応じた「自立心」の育ちを積み重ねる。

・2021年度重点的に取り組んできた「自立心」は、一人ひとりの「心の土台」になる力として重要視してきました。子ども同士が関わる遊びや生活を通して必要な習慣を身に付けてくると、次に見通しを持って行動することを学んでいきます。この見通しという成長が促されると、人のために自分ができることを進んでしたいと心が動き、同時に自分が困ったときは助けてもらいたいと心が求めてきます。このような子どもの内にある心情が受け止められ、支えられ、導かれていくことが、「心の土台」にはとても大事になります。人は一人では生きられません。お互いに支え合い、補い合って生きることは大切なことです。

・子どもたちはそれぞれに可能性を持って生まれてきました。教師もおうちの方も、様々なプロセスの中で、個々の成長は促されていくことを心に留め、「長い目で見える心の余裕」を持ち、急がせず、ゆっくりとおおらかに見守っていきましょう。

：幼稚園生活の中で正しい姿勢を心掛ける

— 身体を思いっきり動かす遊びと、静かに集中する時間のバランスを大切に —

・1年間の取り組みのなかで、正しい姿勢を身に付けることは、健やかな心身の成長・発達にとっても良いことであると思います。強引な指導ではなく、椅子に腰かける園生活の場面の中で、よい姿勢が保てることを教師が意識し、年齢に合った教師の声掛けで子どもたちへの気付きを促していました。特に、机に寄り掛かる姿が多く見受けられていましたが、改善されています。姿勢が良いことは自然に体幹が鍛えられ、身体の発達に良い影響を与え、また、集中力、やる気など、生活面での向上も期待できます。今後も大切にしていきます。

：年少組「お友だちと一緒に遊び、生活する楽しさを感じていく」

・初めておうちの方と離れ集団生活を送る3歳児の心は不安でいっぱいです。その不安を和らげるには、お友だちと一緒に遊び、生活する楽しさを少しずつ実感できるような環境を整え、好きな遊びは何か、一人ひとりの持ち味や成長の変化などを丁寧に見ていくことが大切になります。夢中になれる遊びや友だちとの園生活の充実に努めていきます。

【2022年度、重点的に取り組む目標】の設定について

：祈る心を大切にする。

— 子どもと教師が大切な時を共に過ごす —

目の前の子どもたちと向き合うとき、教師は時として悩み、答えが見つからないことがあります。そのようなときには、一人静かに祈ります。

神さまはその時々に必要なことを私たちに示してくださいませ。そっと祈るなかで新しい恵みに導かれ、再び子どもたちとの朝を迎えます。

保育の中で祈るとき、子どもたちは教師の祈る姿からお祈りを感じ取っていきます。

神さまの恵みや一日の始まり・終わりに感謝し、子どもの気持ちを想像しながら欠席の友だちを心配したり、うまくごめんなさいが言えずにいる子どもを気遣ったり、身近な出来事に心を寄せ、嬉しい出来事を素直に喜び、神さまとお話する教師の祈りにじっと心を向けるひとときになり

ます。穏やかで心安らぐような教師の雰囲気の中で、賛美の時を過ごす子どもたちの真っさらな心は、神さまを感じ、祈る心が自然に育まれていくことでしょう。

「神さまとお話しをしたいことがあったらいつでもどこでも安心してお話ししましょう」と、子どもたちに伝えていきたいと思います。

：集中して話を聞く

— 園生活の中で、身体を思いっきり動かす遊びと静かに集中して話を聞く時間のバランスを大切にすることを通して、めりはりのある態度が身につくようにする —

今後の成長の中で集中して話を聞く態度が身につくことは重要な課題です。

園生活に慣れてくると緊張感が解け、仲間としての関係を求めておしゃべりを楽しみ、コミュニケーションをとるようになります。教師はこの時期の仲間意識の芽生えに応じ、子ども同士の仲間関係がよい形になるような配慮をしていきます。その一方、集団で話を聞く場面のめりはりが付きにくく、おしゃべりが止まらないことも増えてきます。仲間を求める要求に応じつつ、「集中して話を聞く」場面を経験することで、「周りの人への配慮や思いやり、自分の行動の良し悪しの判断などの社会性」の成長を養うことが必要になります。

特に注視すべきは、幼児期に話を聞く良い習慣が身に付くことで、小学校での学習態度、生活態度、人間関係にも大きく影響を与える点です。

就学前には、小学校に行って困らないために読み書き算数等を先取りして教える以上に、幼稚園では、お互いが気持ち良く過ごす態度の育成として「話を聞く態度が身に付いている」ことが改めて見直されています。恵泉幼稚園の教育方針に根ざした取り組みとして、今後も大切にしていきます。

3. 学校評価結果の取組み

評価項目	取組み状況
「おうちの方の学校評価」を実施。 評価項目別に採点を集計し、自由記述の意見をまとめました。	意見を参考に、幼稚園の環境や教育活動を振り返り、改善点を見出しました。
教員の自己評価（自己課題の設定と課題への自己評価）を実施。	・おうちの方とのコミュニケーションの更なる充実に繋がる工夫や努力が今後の課題になります。 ・良い点は伸ばし、不十分な点は改め、新年度向上していけるように努めます。